

平成 20 年度 環境・生態系保全活動支援調査委託事業 -  
「人と海との共生を考えるシンポジウム～東京大会～」  
の開催について

時下、益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。

本会事業の運営に際しましては、日頃から格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今般、本会主催で、標記の「人と海との共生を考えるシンポジウム～東京大会～」を開催いたします。本シンポジウムは、平成 20 年度水産庁委託事業「環境・生態系保全活動支援調査・実証事業」の一環で実施するものです。シンポジウムの趣旨・プログラム等は、別紙に記載しておりますのでご覧下さい。

参加お申し込みにつきましては、ホームページ内の「参加申込書」により、11月14日(金)までに、FAXあるいはメールにてご連絡頂きますよう、お願い申し上げます。なお、会場の関係から参加人員を先着200名様にて打ち切らせて頂きます。

本シンポジウムは、9月12日広島大会を皮切りに開催しており、東京大会が最後の大会になります。人数にはまだ余裕がありますので、是非ご参加の程、宜しくお願い申し上げます。

記

1. タイトル : 「人と海との共生を考えるシンポジウム」
2. 開催日時 : 2008年11月21日(金) 13:00～17:00
3. 開催場所 : 九段会館 「真珠」  
東京都千代田区九段南1-6-5 Tel 03(3261)5521
4. 実施要領 : 別添の通り
5. 定員 : 200名
6. 参加費 : 無料



会場アクセス

- 地下鉄 東西線・新宿線・半蔵門線 九段下駅(4番口)から徒歩1分
- タクシー JR東京駅あるいはJR飯田橋駅から約5分
- 首都高速 5号線「西神田」から3分  
内回り「神田橋」から5分  
環状線外回り「代官町」から3分

<照会先> JF全漁連 漁政・国際部 矢部・吉永・関根まで  
TEL 03-3294-9617 FAX 03-3294-3347

## - 人と海との共生を考えるシンポジウム -

漁業は自然の生態系の恵みを享受する産業です。このため、漁業者は、漁業の源泉である自然環境や生態系の保全、とりわけ、水産資源を育む藻場や干潟等を大切に保全してきました。

藻場や干潟等は水質浄化や生物多様性の維持などの公益的機能を有しており、こうした漁業者の保全活動は同時に公益的機能の保全にも大きな役割を果たしてきたのです。

しかし、近年、漁業就業者の減少と高齢化の進展、漁村における混住化の進行など、沿岸域の環境・生態系保全活動を支えてきた担い手に大きな危機が訪れています。加えて、磯焼けの進行など地球環境の変化により、これまで以上に保全活動の負荷が増大しています。

漁業者だけの努力には限界があり、環境・生態系の保全活動には流域や地域の多くの市民の協力と連携が不可欠です。

このシンポジウムは、漁業関係者と一般市民や行政関係者等が集い、全国5つのブロックにおいて実施するものです。地域の特色ある活動事例の発表や国・地方公共団体の施策の方向、関係者の今後の取組みについてパネルディスカッションを行い、漁業関係者の活動への認識を深めると共に、市民と漁業関係者が手を携え、沿岸域の環境・生態系保全活動の輪が大きく広がることを目的に開催するものです。

### 東京大会プログラム(11月21日開催)

- 13:00～ 挨拶
- 13:10～ 基調講演「農業の経験から交付金制度のあり方を考える」
  - ・小田切徳美氏(明治大学 教授)
- 14:00～ 地域で取り組む保全活動の事例報告
  - ・金萬 智男氏(千葉県 NPO 法人盤州里海の会)
  - ・萩原 徳治氏(静岡県 榛南地域磯焼け対策推進協議会)
  - ・足利 由紀子氏(大分県 NPO 法人水辺に遊ぶ会)
- 15:00～ 国が進める環境・生態系保全活動支援制度について
  - ・水産庁
- 15:20～ 休憩
- 15:30～ パネルディスカッション「里海の保全と地域協働」
  - パネリスト
    - ・小田切徳美氏(明治大学 教授)
    - ・金萬 智男氏(千葉県 NPO 法人盤州里海の会)
    - ・萩原 徳治氏(静岡県 榛南地域磯焼け対策推進協議会)
    - ・足利 由紀子氏(大分県 NPO 法人水辺に遊ぶ会)
    - ・合瀬 宏毅氏(NHK 解説委員)
  - 水産庁 ほか
  - コーディネーター
    - ・乾 政秀氏(株式会社水土舎)
- 16:40～ 意見交換
- 17:00～ 閉会